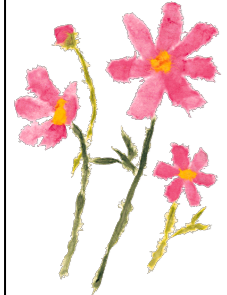


コイノニア



夏休みも終わり、2学期が始まりましたが、“秋”にはまだまだ遠い、とても暑い日々が続いていますね。学校では体育大会の準備も進んでいて、“生徒たちの心の熱さ！”も伝わってきます。みなさんの“熱い心”が、素晴らしい体育大会を実現させると信じています。

9月の聖句は、マタイによる福音書7章12節です。

「だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」

みなさんは、どのようなことを人にしてもらいたいと思いますか？また、今まで生きてきた中で、だれに、何を、してもらって生きてきましたか？私たち人間は生まれてから、だれかに何かをしてもらっている方が多い気がします。それなのに、自分のことばかり優先させて「自分さえよければそれでいい」と自分勝手に生きてしまう…。そこから人間関係はどんどん崩れてしまいます。もちろん、自分自身を大切にすることはとても必要なことですが、私たちの世界は決して「わたし」だけのものではないのです。「わたし」だけが生きているわけではないのです。

今月のテーマは「他者と共に泣く」ですが、悲しみの涙だけではなく、喜びの涙も共に流せる人間関係を作ることができるよう、自分のことだけではなく、自分の周りにいる人にも心を向けてみませんか？例えば体育大会の準備の中で「今、自分の隣にいる人は、何をしたら喜んでくれるかな？」「何をすれば一緒に楽しめるかな？？」ということを考えてみてください。そんな私たちの姿を神さまはきっと喜んでくださいます…。私たちと一緒に。これが初代校長・西村清雄が求めた「神の国」、イエスが人々に伝えた福音“良い知らせ”なのです。

聖書・キリスト教の“はじめの一步”

#06 「一神教と多神教」

「一神教」というのは「神さまはたった一人しかいない！」という考え方、「多神教」は「神さまはたくさんいる！」という考え方です。キリスト教は「一神教」です。唯一の神さまを信じます。一方で日本は多神教の国です。森や木、川などにも神さまが宿っているという考え方です。ギリシア神話にも多くの神さまが登場しますが、これらが「多神教」というものです。

また、ユダヤ教・キリスト教・イスラームは「セム系一神教」と呼ばれ、本来は兄弟のような関係です。現代では、この3つの宗教が、争うのではなく共に手を取り合って歩んでいこうとする取り組みがなされています。同志社大学(旧・同志社神学校。本校初代校長の西村清雄が学んだ学校)では、この3つの宗教と一緒に学ぶことができる、世界でも珍しい大学です。宗教や国境を越えて、世界中の人々が仲良しになれるように…。

9月の予定

月間聖句 「だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」(マタイ7:12)

月間テーマ 「他者と共に泣く」
予定していた「国体壮行礼拝」は中止となりました。

JONAN's History #06

西村清雄と“山路こえて”



法華津峠にある碑 →
(新入生の校外学習で訪れる場所です)

← 『ふるさとの思い出 写真集 明治 大正 昭和 松山』より
編著者 / 景浦勉・山内一郎
発行所 / 株式会社国書刊行会(1981年)



← 本校の正面玄関にある碑

西村清雄は、法華津峠で「山路こえて」の歌詞を考えました。

本校の礼拝で使用している讃美歌21では466番です。「世界の讃美歌10選」に選ばれ世界中で歌われています。

☆今月の「喜ぶ人と共に」大賞☆

学校菜園「καρδία ~カルディア~」で収穫した野菜を、調理科の先生に食べやすくしてもらい、先生たちに食べてもらいました。採れたての野菜は本当においしかったです！



菜園拡大中！！
次回の収穫もお楽しみに！！